

新規・継続等	新規	分野	荒廃山地の復旧等の治山		事業番号	4	事業名	山地治山(復旧治山)							
市町村名	天龍村		ふりがな 箇所名	まづろ 集落			事業年度 (完了年度は見込み)	H23 年度 ~		H24 年度					
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)		谷止工3個				H22年度末事業進捗率		0 %						
	H23年度以降実施内容		同上				本工事費等ベース		0 %						
	H23年度実施内容		谷止工1個				用地補償費ベース		- %						
	年度		全体事業費		H21年度まで		H22年度		H23年度		H23年度以降残				
	事業費計(千円)		115,700		0		0		31,100		115,700				
財源内訳	国庫支出金		53,000		0		0		14,250		53,000				
	その他														
	県債		56,430		0		0		15,165		56,430				
	一般財源		6,270		0		0		1,685		6,270				
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価			部	政策評価課						
								ランク	評点	ランク	評点				
	必要性 (20)	保全対象人家	10戸以上			1~9戸			B	3		3			
		保全対象公共施設	2箇所以上			1箇所				3		3			
		保全対象に弱者施設があるか	重要施設			一般施設				0		B		0	
		保全対象(保安林・林業用施設)	「広域基幹林道」又は利用区域500ha以上の林道又は保安林率50%以上			保安林率30%以上50未満又は流域対策上保全すべき森林あり				7		7		7	
		小計								13		13		13	
	重要性 (15)	過去の災害履歴	過去5年に1回以上			災害履歴地			A	5		A		5	
		交通遮断による地域経済などへの影響	大			中				5		5		5	
		防災計画上の位置づけ	あり			なし				5		5		5	
		小計								15		15		15	
	効率性 (20)	費用対効果(B/C)	B/C2.0以上			B/C1.0以上2.0未満			A	10		A		10	
		早期発現度	3年未満			3年以上5年未満				7		7		7	
		流域の総合調整	あり			なし				0		0		0	
		小計								17		17		17	
	緊急性 (25)	最寄の保全対象までの距離	50m未満			50m以上200m未満			B	4		B		4	
		地形、地質の状況	火山噴出物、花崗岩、第3紀層、破砕帯かつ地すべり地形			火山噴出物、花崗岩、第3紀層、破砕帯				2		2		2	
		平均深床勾配(平均山腹勾配)	10°以上(30°以上)			5°~10°未満(20~30°未満)				3		3		3	
		下流の堰堤等の整備状況(他所管含む)	なし			あり(概ね満砂)				3		3		3	
		危険地区危険度	Aランク			Bランク				4		4		4	
小計							16		16		16				
計画熟度 (20)	地域からの要望	地域住民活動強い			市町村要望有り			B	7		B		7		
	事業情報の共有	関係者以外にも周知			関係者中心に周知				3		3		3		
	住民参加の状況	住民が直接参加			住民市町村意見を反映				3		3		3		
	小計								13		13		13		
費用対効果(B/C)		2.02		評価の合計				B	74	B	74				
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	主要保全対象である県道1号線は愛知県に通じる幹線道路であり生活道路でもあるため、以前より治山事業が実施されてきた。特に平成5年~10年にかけて復旧治山事業による谷止工の整備が集中的に行われたが、平成22年7月豪雨災により土石流が発生し県道通行止めとなった。溪流内は上流部で縦横侵食が激しく土砂が大量に生産されるとともに、中・下流部に大量の土砂が堆積しているため、新たに谷止工を施工し侵食防止および不安定土砂の流出を抑制する必要がある。													
	地域からの要望経緯	平成22年7月豪雨災により土石流被害が発生したことを受け、道路管理者及び天龍村から対策工実施の要望があった。													
	事業説明等の経緯	平成23年度国補治山事業の要望箇所とすることについて平成22年11月に天龍村役場へ説明。平成23年度実施の可否及び計画内容決定後、村を通じて地元関係者に説明することを確認した。													
	環境・景観への配慮項目	河床内に堆積する転石を鋼製谷止工の中詰材として活用し、コスト縮減ともに残土の発生量を抑制する。													
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし。													
特記事項	特になし。														
地域の合意形成		全員賛成		概ね賛成		過半数賛成		動向不明		その他					
部意見	平成22年7月豪雨により、溪流内には大量の土石が堆積しており、時期出水木には直下の県道に被害を及ぼす恐れが高いため、対策を行う必要がある。				政策評価課意見		重要性が高い。								